

森子大物忌神社境内と鳥海山滝沢口登拝道

[秋田県由利本荘市森子字八乙女下 外]

鳥海山

東由利原高原

⑧吹上

⑧吹上

滝沢口1合目。ここから由利原、御助を経て花立で矢島口登拝道と合流し、2合目の木境を通り、山頂の大物忌神社に至ります。

⑦大月

⑦大月

道者が月を眺めた場所です。ここから登拝道をいったん下り、大月の尾根を登った高台も月見の名所でした。現在は鳥海山展望所として整備されています。

至 国道108号

①森子大物忌神社【国登録有形文化財】

一ノ鳥居から社殿まで約300段の急な石段が築かれた、八乙女山の中腹に位置します。矢島・小滝(にかほ市)・蕨岡(山形県遊佐町)修験が醍醐寺三宝院^{※1}との関係をつぶ中、滝沢修験組織は天台宗に属し、羽黒派^{※2}との密接な関係を維持しつつその地位と独自性を保ってきました。羽黒派滝沢修験組織の活動拠点として安政2年(1855)に再建された拝殿および幣殿は、市内では唯一残る、鳥海山修験組織が活動していた当時の建造物です。本殿には薬師如来を中心とする薬師三尊像と十二神将像が安置されています。

滝沢口登拝道は急峻な道が続くため、靴やウェアなど登山に必要な装備をご準備ください。

②護摩壇(ごまだん)

南北約250cm、東西約200cmの護摩壇^{※3}の石積と、周囲に修験者が座したとされる平坦な石が現存しています。

③神楽座跡

神事の際に神楽を奉納した場所。滝沢口では神楽座から上方は聖地とされ、戦後に女人禁制が解除されるまで、女性が参拝できるのはここまででした。

⑥鳥海山様

鳥海山の噴火で飛んできたと思われる鳥海山の山容に似た自然石で、八乙女山の山頂に祀られています。境内は、参道一社殿一鳥海山様が一直線に位置するよう、鳥海山様を意識した配置になっています。

⑤小屋掛けの松(道銭小屋跡)

道者(登拝者)から道銭の寄進を受ける小屋があった場所。昭和20年頃まであり、道者は道銭を払い、草鞋(わらじ)を二足買って一足は履き替え、もう一足は持って登拝しました。

④夫婦滝

かつては子吉川で禊をしてから登拝しましたが、近代の河川改修により森子集落から川が離れたため、ここが滝沢口の禊(みそぎ)の場となりました。

④夫婦滝

【用語解説】

※1 裏面の※1を参照。

※2 山形県の羽黒山を本山とする修験道の一派。

※3 火を焚き、火中に護摩木・穀物などを投じて息災・増益・調伏などを祈る場。密教の儀式で行われます。

こちらにも専用駐車場があります

